

全体講評

人と人の温かなつながり、一つ一つの命が生み出す力などといったものを描く、生命力あふれる肉厚な作品ばかりで、無力な私たちがこれからどう未来を切り開いていくかを深く考えさせられるとともに、歩みだす勇気をもらいました。

上演1『あのこをさがして』立川女子高等学校

都市伝説をテーマに現実を描いた劇で、中途半端な理解が生む偏見や孤独に気づきました。声を上げたくてもひそめておかなければ傷つけられてしまうという苦しみ、「口が裂けても言えない」ことを抱えている方々の存在がショッキングでした。

上演2『本当の朝』津曲学園鹿児島高等学校

相手や自分を守るための嘘で誰かが傷つくのだと考えていかなければならないと感じました。本当のことを認識することでどうにもならない状況でも凛として歩き出せるということが伝わりました。

上演3『空に響け!』岩手県立水沢高等学校

相手を思って行動することが、勇気を与えるだけでなく、勇気を出す方法でもあると感じました。また、伝統を守りたいという気持ちから心がつながり、パッションが受け継がれていくことのすばらしさを感じました。

上演4『スパイス・カレー』北海道網走南ヶ丘高等学校

気づいたら忘れて大人になっている、家族へのまっすぐな愛情を思い出してほろりと涙の出る劇でした。家族ならではのぎくしゃくは共感できるものが多く、不器用な愛を受け止め、受け継ぐことをそれぞれの家族に重ねて考えることができました。

上演5『ヒッキー・カンクーントルネード』大同大学大同高等学校

周りばかりが騒いで本人を取り残していく様子を一見コミカルに、しかし私たちの視野の狭さや正義のあやふやさにはっとさせられるように描いた劇でした。自分の正しいと思うことにとらわれ、中身をしっかりと見ないでいることがどれだけ人を傷つけてしまうのか、ということを考えるきっかけになりました。

上演 6『事情を知らない風間さんがぐいぐいくる』香川県立観音寺第一高等学校

コロナからも転校からも前に進む、それを受け止める仲間がいる、青春の明るさと暗さを爽やかに表現した劇でした。笑顔でいれば、と苦しむ風間さんが弱いところを見せて信頼できる友達を得たことに、優しい気持ちになりました。

上演 7『戯王【gi:oh】』久留米大学附設高等学校

演劇の在り方そのものを描いた劇で、「自分のために劇をやる」という言葉が私たちの胸に深く刺さりました。自分が望み、努力した結果が報われずとも「これが私」と力強く宣言する舞や、不安ってそんなもんと舞を引きずり出す一花の力強い姿に勇気づけられました。

上演 8『群白残党伝』埼玉県立秩父農工科学高等学校

ひとつの命の後ろに、関わる人間すべての人生を感じ、命の重みを何度も感じました。正義や志の押し付け合いというだけでなく、仲間同士の幸せな時間も丁寧に表現されていて共感できるだけに胸が突き動かされる物語でした。

上演 9『21 人いる!』徳島県立城東高等学校

簡単に人の命が失われることへの実感が、恐怖、無力感、危機感とともに印象付けられました。何も知らされず、知りたくないときえ思ってしまう現実に向き合うこと、そのための演劇のあり方について深く考えさせられました。

上演 10『ローカル線に乗って』島根県立三刀屋高等学校

人と人、人と故郷のつながりを豊かに「感じる」ことのできる劇でした。便利なものを求めてしまう今の世の中、どんなものにもその歴史を紡いできた人々がいる、紡がれてきた物語があるということ、それらを私たちが考えようともしてこなかったことに気づきました。

上演 11『リセマ達』滝川第二高等学校

やり直せないことに表味がある、何度失敗をしてもそれを大切に、前に進み続けることの大切さを感じました。他の人に対して商品のようにランクを付けている私たちの姿勢にも疑問をぶつけられ、劇中で登場人物たちが手に入れた友情には心があたたまりました。

上演 12『フワフワに未熟』東京都立千早高等学校

楽しくキラキラしているという固定観念のある「女子高生」が共感できる生活風景とともに悩みも吐露していくという劇に、同じ悩みをもつ仲間のいる心強さを感じ、励まされました。高校生という子どもでも大人でもないフワフワした立場で自分らしく立ち向かっていく姿に勇気をもらいました。